

◆小野峯生委員 今年度の当初予算で洋上風力発電のポテンシャルを調査することとし、事業者を公募していたわけでありましたが、順次、思いつくところをお伺いします。募集をしているわけですが、その委託内容というのがいろいろと、三点ある。風況に関する客観的データの収集、整理・分析。海域利用に向けた制約及び条件等の調査・整理だとか、洋上風力発電ポテンシャルマップの作成だとかが掲げているわけ。これは、その前の国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）などが基本調査、独自にやっていたりいろいろなことをしているわけですが、まず、それを広げたり進化させたりするような、この日本海の新潟県のエリアの中でどういう調査をと。それとまた進度を高めたり協力したりしていくのでしょうか、その辺のところの違いと具体的な内容をもう少し詳しく聞かせていただきたいと思います。

◎利根川雄大産業振興課長 今年度に取り組んでいる洋上風力発電のポテンシャル調査の件でございます。委員おっしゃるようにNEDOなどで、すでに風況のマップというのは公表されております。それで、飽くまでもそのシミュレーションに基づくものでして、おおむねのポテンシャルというか、そこで洋上風力発電ができるのではないかということは分かっているわけですが、実際にその事業として取り組むため、要は採算性を確保するためには、ある決められた地点の実測が必要になったり、この決められた期間にどれくらいの効率が得られるかと。そこを改めて確認する必要があるというところで、具体的に申し上げますと、やはり秋口、冬場の風。強ければいいというものでもありませんので、そういうところを具体的に測ることが必要かと思っております。また、今回のポテンシャル調査事業の内容としては、そういった風況調査だけではなくて、やはり社会的な制約、系統もそうでございますし、地元のステークホルダーとの調整関係などがこれから解決していかなければいけない課題としてあるのかということも上げていただいて、民間の投資を呼び起こすために必要な情報をそろえるという趣旨で調査をするものでございます。

◆小野峯生委員 それで、その計画は、3月25日に公募を開始して、4月6日までに参加申込書を提出だと。それで、5月11日に企画書提案の提出締切だとかあって、5月下旬に委託事業者の決定がなされるというふうに予定ではなっていたと思いますが、公募スケジュールはもう過ぎているのですけれども、その辺の情報というのは、今現在、どうなっているか教えてください。

◎利根川雄大産業振興課長 同事業の進捗（しんちよく）状況でございます。先般、提案を頂いたものに対して、外部の企画提案審査委員会で審査しまして、委託事業者を決定いたしました。今、具体的にどういう地域でという提案は頂いていますが、どういうふうに事業を進めていくとより効果が得られるかということも事業者と具体的な調整、打ち合わせなどをして、調査に入っていたかどうかというような状況でございます。

◆小野峯生委員 その参加申し込みだとか企画提案は、どの程度の業者、企業から申し込みがあったのですか。

◎利根川雄大産業振興課長 提案の数に関しましては、すべてで六つの提案を頂きました。採択事業者につきましては公表させていただいておりますが、一般財団法人日本気象協会新潟支店ということで、やはり、提案の内容としては、もちろん知見を有しているということに加えまして、実測の場所を決めたり、調査をしていくに当たって、有識者を使った委員会を設置するというような提案が評価されまして、採択に至ったという状況でございます。

◆小野峯生委員 それで、岩船沖の話ですが、今、いろいろと村上市長たちが地元のほうで調整をしまして、いろいろな航路の関係とかで37基くらいになったのでしょうか。それで村上市長もずっと説明会等を地域で今も開いてまして、おおよその地元合意ができているのですが、採算性だとか、あとは環境アセスメントとかです。では聞きますが、環境アセスメントについては、だいぶ国も進めるという意味で、期間だとかそういうふうなものが短縮されるというような話もあるのですが、今、現状の岩船沖に関してはどのような認識を持っていますか。

◎利根川雄大産業振興課長 岩船沖の洋上風力発電プロジェクトでございます。事業主体からの情報としては、この秋ごろに具体的な風況調査の結果が出るというふうに聞いております。やはり、今申し上げたように、事業採算性がどれくらいあるのかということをしっかり把握しないと、事業として進めていけない部分もございますので、かなりの期間をかけて風況調査をされているというふうに承知をしております。また、環境アセスメントのお話であったり、後は航路との関係、あとは地元はやはり御心配なところもあるかもしれませんので、そういうところへの丁寧な説明というものを引き続きやられていると承知をしております。

◆小野峯生委員 それで、ここの関係の日立造船株式会社を代表会社とする10社のコンソーシアムですが、その、いわゆる名古屋大学の安田教授等の話では、やはり、岩盤の関係というふうなこと、それから、採算性という意味で考えますと、今少し、航路の関係とかで基数が減ったというふうなことも含めて、計画を胎内まで広げたいというふうな話をしているのです。胎内では100基程度というふうなことで、ここらはどうなるか分かりませんが、これからそういうふうに進めていくということですが、この辺のところの事業採算性、あるいは県のかかわり方というのはこれからどのようになっていくのでしょうか。その辺のところを、伺います。

◎利根川雄大産業振興課長 胎内市のプロジェクトでございます。我々の聞いている限りでは、先般、2月ごろだったと思いますが、胎内市議会のほうで勉強会が開催されたということ承知しております。まだ具体的な事業者が分かっているとかというふうなところまでは至っていないと聞いておりますが、いずれにしても、いろいろと、県としても許認可権限があったりもしますので、我々産業労働観光部だけではなくて、関係する部局がございますので、しっかりと情報収集、コミュニケーションを取るということに、努めていきたいと考えております。

◆小野峯生委員 それで、クリーンエネルギー、再生可能エネルギーでありますので、県も進めているわけですが、このエリアに対するこれからの課題、解決する点はいっぱいあると思うのですが、その辺のところをどう県は掌握して進めると。民間中心にやることですが、いろいろな意味で県のかかわりが出てきていますので、その辺のところをどう考えてどう進めていくのか。期待も含めて、その辺のところを伺いたいと思います。

◎利根川雄大産業振興課長 課題と今後の県のかかわり方でございますが、我々として、まず、やはり大きな課題、現状あるものとしては、系統接続ができるのかどうかというところがございます。あと、ローカル、基幹線を含めて、新潟など、日本海側の東北電力株式会社の送電網には余裕がございませんので、これについては、今回、このような事業をしてポテンシャルがあるということを改めて確認したうえで、国などにそういった基幹線、根本となるような課題の解決を要望していくようなことかなと思っております。先般の定期要望のほうでもそういった系統線の、拡充ということは要望事項に上げておりますので、そういうふうな機会をとらえてやっていくことかなと思っております。